

諸人貴せんぐんじゆすすし、まやうがうす、其外諸色市立也。

〔名物鹿の子〕上題神明市

神風は吹ともわかじ生姜市

生姜市

牛車生姜車耳押遣禮

燕宴舍安士

〔梅園日記〕飯倉神明

毎年九月此神明祭に、參詣の人、必生姜を買ふ事あり、山中稠有の、芝神明宮開始縁起石塚豐に、生

姜を此神へ奉る事は、昔社を造立せし飯倉山は、近邊皆赤土也、赤土には種を殖すとも、生姜おひ

出る物なり、自然に出來たる物故に、取あへず神に奉りし事、例になれり、又大石千引の、野乃舍隨

筆に、神明祭に生薑を鬻事は、論語郷黨篇に、不撤薑食とある注に、薑通神明去穢惡故不撤とあり、

これより誤るかとある人いへり、などあり、按ずるに、これらの説うけがたし、皇太神宮年中行事

に、四月十四日、遠江神戸所進種薑、子良宿館南垣内所奉殖也、九月御祭之時、御饌所供進也、とあり

て、伊勢の神宮にて、九月の御饌に奉りしを、そのかみこ、にうつしたる遺風なるべし、

〔嬉遊笑覽六下〕新弄生姜市は、貞享江戸鹿子に、九月十六日、芝神明祭、鮪しやうがうす、其外諸色市立な

りとあれば、久しきこと、みゆ、俗に目くされ生姜とて、此市には目のた、れなどしたる者の售

るを求む、韃隨筆に、拾芥抄食禁物部に、三月五辛を食はず、九月生姜を食はずとあり、あさつき、鱈

は、雛の膳供にさだまり、芝神明の生姜祭り、食品にあらずして何ぞといへり、げに本草に、孫思邈

云、八九月多食薑、至春多患眼云々、孕婦食之令兒盈指とあり、目くされ生姜は、この儀にはよるべ

からず、その辛味つよく、目にしむの意なり、これを相贈ることは、其時肥たる節物なればなり、其

うへ古諺あり、貞徳百韻に、生姜手が三へぎと筆にかすませて、其自注に、手がはじかみならば、生